

## 令和6年度 第1回振興審議会 議事録

- ◆日時 令和6年11月21日(木)午後2時00分～午後4時00分
- ◆場所 シェルターなんようホール 練習室1
- ◆委員 出席13名 欠席5名
- ◆事務局 みらい戦略課長、同補佐、企画調整係長ほか事務局 1名

### 〈次第〉

\*辞令交付(南陽市振興審議会条例第3条第2項により市長が任命)

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告  
(1)第2期南陽市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和5年度実績報告について
- 4 協議  
(1)第2期南陽市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について
- 5 その他
- 6 閉会

### 《議事録》

#### 3 報告 (1)第2期南陽市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和5年度実績報告について

(松田典子委員)

基本目標に対する進捗率、達成率が100%に近いところが多くて、非常に素晴らしいと感じた。基本目標3の合計特殊出生率について、第三子への補助は様々あるが、子どもを産む方が減っている中で、第三子への補助というよりも、第一子、第二子の子どもさんへの補助はあるか。できれば第一子、第二子への補助を手厚くした方がいいのではないかと感じた。

様々な場所に取材で行くが、近隣の米沢や高畠の方で烏帽子山公園の桜を知らない方が結構多いことに非常に驚いた。当たり前のように知っているものだと思っていたものが、実はすごく近くに住んでいる人が知らない現状に驚いた経験があり、常識と思っていたことでも違うことがある。発信の方法は様々あるが、ぜひ私たちに気軽に声をかけていただければと思う

(事務局)

第一子、第二子に対する補助は南陽市ではない。第三子以降への補助として政策に位置付けているが、貴重なご意見をいただき、今後も検討してまいりたい。

(須藤清市委員)

南陽市の中で、総合計画や総合戦略の位置づけは。

南陽市はもっと数字を上げられる立地条件の良い場所。私としては、もう少し大きな目標、南陽市がどこを見てどんなことを考えているのかということ、世界や日本に旗揚げをもっと強くしていいのではと思う

ている。例えば、DMO の関係。5年間で一つの節目が終わり、それに繋がっていくのもいいが、南陽市が単独で DMO を立ち上げて、周りを引っ張っていくような形にすべきと私自身は思っている。また、地元にある財産をうまく運用するには、こういった職種とどのように連携すれば市民のためになるのかと思っている。

(事務局)

第6次南陽市総合計画は、市のまちづくり計画の最上位計画ということで位置づけている。その中で、人口減少抑制、地方創生という部分において特化した計画を、南陽市まち・ひと・しごと創生総合戦略として位置づけている。人口減少抑制に向けてどのような取り組みが必要かということ、基本目標を四つに分けた上で、それぞれに対して一つ一つ市の施策を付随し、数値目標を設定し、毎年取り組んでいるというような進め方をしている。

DMO に関しては、長井市が中心となり2市3町で実施しているが、広域に観光を楽しんでいただく、市町の観光資源を繋げていくということが大事な目的となっているため、南陽市単独では少し考えにくいかなとは思っている。2市3町の DMO の中で、南陽市の財産、地域資源を織り込んでいただきながら進めていくことを考えている。

(会長)

DMO はこれから非常に重要なポジションだと思うため、ある程度継続して少し計画した方がいいかもしれない。そこが一番うまくいかないと観光客がなかなか来なかったり、様々なイベントが陳腐化したりしてしまうので、そういったことも考えてぜひやっていただきたいと思う。

(須藤清市委員)

DMO については、県が立ち上げたような大きいものと、2市2町程度の今の流れのものと、1市というものがあって、1市のタイプに私は入っていくべきだと思っている。令和9年度あたりから新しい募集が始まるが、もっと具体的になっているため、全ての産業、全ての問題を DMO に入れた一つの人口対策が必ずできると思っている。それに向けてタイミングを見て順次していただければと思っている。

(板垣致江子委員)

15番の桜・バラ・菊のイベントなどの参加者も、天候に左右されることは非常に厳しい。やはりお祭りなどは半月程ずらしてもいいのでは。自然に育てるのであれば、段々とそういうことが必要になってくると思う。

地域おこし協力隊の定住者や新規採用を、何年も前から私はもっと多くの人を使って地元にお越しいただければと言っていたが、なかなか南陽は遅かった。それでも今このぐらいの人数が実績として出ていることは、まず仕方ないと思いながら、もう少し地元で頑張れるような地域おこし協力隊の方と、みんなと一緒に活動できればいいと思っている。

30番の地域活動の取り組みについて、南陽高校との連携プロジェクトを中心に増えてきたということで、南陽高校の活動は若い人たちが動いて大したものだなと思うが、やはりもっと地元の若者が地域づくりに情熱を燃やせるような何かが必要なのではと、それが何かともまだ言えないが、すごく感じている。

(事務局)

桜まつりについては、点灯式等々、桜の開花状況に合わせて観光協会さんでも対応していただいている。

バラまつりについても、時期を早めて入園していただく等、時期は事務局で調整できるが、やはり屋外のおまつりのため、天候で人が左右されることは今までもずっと経過としてある。そのあたりは難しいが、開催時期等の検討は十分に可能。

地域おこし協力隊や、若者との活動について、南陽高校生は大変積極的に地域と関わりながら体験を積んでいただいている。地域の若い方も活躍できる場についても設定できるよう引き続き検討していきたい。

(会長)

南陽高校に関しては、県立高校は軒並み人が減っているため、なくさないように活性化をしていかなきゃいけない。私立高校はそうでもないようだが、県立高校は本当に子どもの数が異常に減っている。そういった大きな問題もあるため、南陽高校を活性化していけばいいかなと思う。

(中村和彦委員)

みらい戦略課で51項目の数値について、総じて全体的にいい方向とみているのか、そうでもないのか、どう捉えているのか評価を聞きたい。

また、南陽市の強みと弱みについて、みらい戦略課でここは南陽市として誇れる、他の市町村に自信を持つこと、逆に、毎年様々な施策を取っているがなかなか伸びないような弱みをどう捉えているのか。

(事務局)

評価としては、過去のデータに基づいての目標値ではあるが、社会状況も刻々と変わる中で目標値を超えているところも半分以上あり、少しは進捗していると感じている。

南陽市の強みとしては、須藤委員がおっしゃったように立地条件だと考えている。国道113号が通っていること、赤湯温泉、熊野大社、スカイパークといった観光資源が豊富にあることは強みと考えている。弱みとしては、産業の面で産業団地の造成等様々滞っているため、雇用の創出に繋がるところにもっと力を入れていければ、人口増加にも繋がるのかなと考える。

(会長)

おそらく強み弱みはどこも一緒。人が、皆さんが、強みになっていかないといけないかなと思う。南陽は頑張っていると思う。私は色々なところを見ているが、非常にユニークで面白い場所で、1人1人がやはり強みにして変えていくともっと豊かになるのかなと思う。

(川合信也委員)

仕事の関係上、南陽市に住むか、他の町に住むかの判断基準は、どれだけ補助が出るか、結局はお金が一番注目される部分かと思う。

「稼ぐ地域」とは、結局どういう意味で稼ぐ地域という形なのか。今目立ったところで、例えばふるさと納税があると思うが、それだけではなく、市としての収入を上げていくことが非常に大事と思っている。

外向きで強いなど感じる部分は色々あるが、現在住んでる人たちにとっての住みやすさの項目が急に薄く、具体的ではないと感じる。今、南陽市に住んでいる人が、周りの人に対して、一番いい町だと思えることが一番のPRになると思う。補助金関係もそうだが、南陽市民の需要を満たしているのか気になるポイント。

空き家バンクに関しては、南陽市の評価は非常に高く、空き家バンクの認知も本当にずば抜けて高いと思

う。空き家の増加は尋常じゃないため、力を入れていただいて、うまく活用していく、活用できないものも多いためどう対応していくか考えられたらいいなと思う。

南陽市に会社を持っていきたいという話を結構受ける。南陽市は、人口に対する同業者の割合が比較的多いと感じる。注目されている地域ではあるので、その注目されている層をどうしたら取り入れることができるか考えていけると、より活発化するのではと個人的には思う。

(会長)

Uターンや若い人を連れてくるために、新しい職場をどう作っていくか非常に重要。大学の中でも様々取り組んでいるが、魅力ある勤め先を作っていかなければならないことは非常に大変な問題。製造業が非常に今弱くなっており、賃金が上がらない問題がある。ここはとても大きなポイント。

併せて、雪の対策も必要。最近地域で話を聞く機会があるが、雪が降り、ひと冬で逃げた人が北村山地域でいたようだ。そこだけの話ではないため、対策をどう考えていくか非常に大事。

(三坂委員)

業種柄、様々な企業様とお話する中で、人手不足の課題が大きくなっている。実際に就職面接会等、様々な場所で開催していただいているが、可能であれば企業様の声を聞き、課題や人材について知ってほしい。県内市内の人材では不足し、外国人を呼ぶことも起きているが、高校から大学へ進学して、南陽市に戻ってこないことがおそらく一番の大きな課題だと思う。その課題をどう解消できるか考えると、実は企業様を知ってもらえていない、大学で学んだ様々な知識を南陽市や山形県の働き先で生かせないのではという考えの中で、やはり大手企業へ動いているような印象を非常に持っている。そういったところを含めて、地域の企業様は市の力が必要なのではと思う。

年間観光客数が100万人ということだが、この観光のお客様はどれほどの方が旅館に宿泊しているのか。龍上海や熊野神社は非常に込み合っているが、実際に旅館に泊まり、南陽市内で面的にお金を落としてくれる動きになっているか。スポットで神社だけ、龍上海だけで、そのまま長井や山形や米沢に抜けていく。そうではなく、1日南陽で過ごしていただくことにより、交流人口も増え、地域の飲食店や物販も含めた経済効果もあるのではないか。様々な業種や垣根を越えた連携をもう少しとっていく必要があるのでは思う。

(事務局)

若者が戻ってこないことは本当に一番の課題。企業様のことを「知ってもらう」ことは重要なことだと思うため、対応のひとつとして、県外学生向けの食の支援事業で接点をもった学生に企業紹介等も実施している。今後もうまく活用していきたい。

人手不足については、企業様だけでなく様々なところで問題が起きているため、皆様の声を聞いていかなければならない。

R5年度宿泊者数調査では82,000人程となっている。

(会長)

全体的に観光を進めるにはDMO。DMOで点を面にしていく。例えば、冬場は蔵王と銀山は非常に観光客が多い。人が宿泊する場所を考えたときに、肘折や赤湯はルートとして非常にいい。市と民間が入って議論をしていくことは非常に重要。

人手不足はこれからますます大変。高校生がものすごく少なくなっていることに加え、今まで大学卒を採用してきた中央の大手企業が高校生に目をつけており、ますます人材は少なくなると思う。本当にいいまちを作っていくといけない。

(佐藤委員)

結婚・出産・子育てに関して、実際結婚をしない女性が増えていることについては、仕事のキャリアの面で、結婚してしまうとどうしても休み期間があったり、子どもが小さいうちはフルタイムでの復帰が難しかったりというところで、なかなか結婚に踏み切れない方もいらっしゃると思う。また、出産に踏み切れないという方は、女性が子育てをしながらでも働きやすい南陽の企業を推奨する、大事にしていくと、出産をしても仕事を続けられるという考えに繋がっていくのかなと思った。

No.41、42、43 の令和元年度の数字は決して悪い数字ではないと思う。ただ、住みやすいと思う理由、住み続けたくないと思う理由について具体的に聴き、南陽の大事にすることは何か、課題は何かを拾っていくことで、これからの伸びる市場がわかる。若者が希望することも時代で変わり、非常に大事なアンケート調査になると思うため、ぜひ5年に一度ではなく、もう少し期間を短くして、市民の生の声を聞いていくと、もっといい案が出てくるのではと思う。

(会長)

子育てしやすい場所に人が集まることは多い。大きな戦略の一つとして考えておくと非常にいい。

(佐々木委員)

住みやすいと感じる人の割合や満足度は大事。そこが足りない部分を施策として進めていくことが満足度の向上に繋がると思う。

子どもたちが住み続けたいと思うためには、まずは住んでいる大人たちが、南陽市がいいところだと思って行動できるような町にすることが大事だと思う。

新規就農者数が伸びていることはいいが、定着率のほうが大事な視点だと思う。

(事務局)

市民の思いを把握することは大変重要なことだと思っている。アンケート調査が5年に一度であるのは、後期計画を作る際に再度、2,000人程度に依頼して回答いただくため。毎年アンケート調査を実施することになるとその規模では難しいと思うため、規模や項目の縮小、簡易化等検討していければと思う。

新規就農者への支援が、3年間就農し農業で起業する際に補助する一体のパッケージになっており、その後何年そこで農業を続けているかは把握していないが、親元就農の場合はそのまま定着するが、雇用就農の場合、例えばワイナリーや農事組合法人等に就農した場合、農業技術を学び他の場所で就農するケースも多いと聞いている。そこをいかに南陽市内での自営農業に誘導していけるかは課題。

(北澤委員)

芸術文化協会の副会長と芸能部長を務めている。今年、南陽市芸術祭の第50回目を盛大に実施した。来場者は、シェルターなんようホールの収容人数1,400人に対して400ちょっと。演じる側も観客もそれなりの年になり、なかなか入場者数を伸ばせないというのが現実。同じくシェルターで実施したことも芸術祭

は、約 1,000 人の観客がきた。やはり子どもさんが出演するとなると、お友達やご両親、祖父母の方までいらっしゃる。子育てについての話題が出ているがまさにその通りで、イベント関係を盛り上げるのも子どもさんが重点になるのかなとつくづく感じた。

湯こっつについて、大変盛況でいいが、市外県外から多くのお客様が来ているため、特産品を置く等観光的な要素をもう少し工夫してできればと個人的には思う。

あずま湯がなくなったことにより、あずま湯周辺の交差点一帯が空洞化した。南陽市の一等地が空洞化していることに納得いかない。公共物がなくなると人の流れは大きく変わるため、あずま湯の跡地に人が集まるようなコミュニティセンターのようなものを作ってほしい。

LED 防犯灯の普及について、市から補助が出てほとんどの地区で LED に変わっているが、寿命は 10 年で、電球だけ交換ができない。電気料は安くなるが、10 年に 1 回 45,000 円程の高額なお金がかかる。地区としてある程度備蓄していかないといけないため、市として検討してほしい。防犯の観点で加えて、高畠でのコンビニ強盗、白鷹での郵便局強盗、また全国的に闇バイトでの強盗が多発しているため、防犯カメラを充実させて、市民が安心して生活できるようにお願いしたい。

(松本委員)

市民の声を聴くことについて、私も感じていたところ。

数値目標や KPI の項目について、数が多くて管理が大変では。今後も管理していけるのか心配。結果の総括だけになっており今後どうしていくかが見えない。通常、単年で目標を立て、中期で目標を立てる。しかし現状を見るとほとんど結果論になっている。実際に難しいのであれば、大きな見直しも必要では。単年で実際に進めて、現実的な、全て 100% を少し超えるような計画になればいいのではと思う。

No.39 地域子育て拠点施設の利用者数について、長井の「くるんと」は非常に成功しており、人が集まっている。他の市町村からもお金がかからずにすぐに簡単に行ける。南陽市でもこういったことをすれば、この目標はもっと高く持って進めても、若い世代がどんどんそこに行きたくなるような、子育て世代がどんどん集まってくるようなものすごく良い結果につながるのではと思うため、お金がかかって大変だとは思いますがぜひひ力を入れてしてほしい。

No.49 体育施設利用者数について、来年度は市民体育館の天井工事で市民体育館が使えないため、数字が落ちるのは目に見えている。年によって多い・少ないというのはそれぞれ様々な理由があるため、やはり、個別に単年で現実的な目標をたてた方が目標と結果に結びつきやすいのでは。

地区長会として何をしたらいいのか、地域の方にどう働きかけていけばいいか教えてほしい。

(会長)

皆さんの意見を聞いて作ろうとすると、どうしても総花的なものになってしまう。何かを削るとご意見が出る。非常にたくさんの時間をかけて、子どもから大人までアンケート調査を実施して市民の声を様々吸い上げて作られた計画なので、総花的にならざるを得ないのだが、重点的に南陽らしいもの、特に南陽市が豊かになるため、繁栄するためというキーワードの中で重点項目のような形で進めてもらってもいいかもしれない。引き続き考えていきましょう。

(大友委員)

若い世代をどう育てていくのが肝になると思う。その中で、子どもたちが南陽市の外に出ても、戻って

きたいと思える南陽市にしていかななくてはならない。南陽市に魅力のある企業があふれることで希望する仕事ができる、就職できることも一つではあるが、進学等で東京や仙台に出て行った子どもたちが戻ってきたと思うために一番重要なことは、小さいころからの教育だと思う。自分も東京へ出て家業を継ぐために帰ってきたが、帰ってきてから社会教育や青年教育に携わり、非常に大きな影響をもらい、現在市議会議員の仕事もしている。社会とともに、地域とともに、どうやって子どもを育てていくのか、地域教育をどれだけ充実させていくのかという部分が非常に大きな視点になるのではないか。そのため、もう少し地域教育や社会教育を含めた点について細かな内容を充実してもらえると、少しでも解決する方向に繋がるのではと思う。

若い人や人口が増えてくる一方で、高齢化の問題もある。例えば、新規就農者数ばかり、イノシシの捕獲ばかり、農産物の生産者や猟友会等どこを切り取っても高齢化している分野は非常に多い。様々な分野で若い人を育成し、今高齢化している部分を補っていく。それで魅力ある市にしていける。新しい人を呼ぶというところで高齢化の問題も解決していかなければならない。

DMO や町の空洞化という話が出ているが、南陽市は非常に魅力のある観光地がたくさんあるが、点と点だけになり、それを繋いでいくような仕組みが非常に弱い。南陽市は昔から、町の商店街の人たちのつながりで出来てきた部分がたくさんある。その地域の人たちが集う分野、商店街やコミュニティと観光地を繋いでいくことによって、観光がもっと成り立つと思う。魅力ある観光地を生かしていくことも大事だが、繋いでいくまちづくりに改めて取り組んでほしい。

(会長)

教育の問題も非常に難しい話。誰がどういう教育するのかという議論になる。私も現在山形大学で、企業と学生をつなげて、社会実装という形で社会の課題解決をしていくようなことを、ものづくりや AI やデジタルに強い学生を集めて行っている。その中で、企業の良さを知って残る、あるいは起業のバックアップをすることに取り組んでいる。そんな形で、夏休み等に南陽市出身の大学生や南陽高校生等、学生だけで集まって、南陽市の社会課題を解決するようなテーマで場を設けると、愛着も出てくるし就職先も自分で作っていく可能性があるのではないか。子どもが残らないのは勤め先がないからという話になりがちだが、大友委員を中心に教育の面は議会でも取り上げて対応していただきたいと強く思う。

(遠藤委員)

議員になって 25 年だが、当時は南陽市の人口が 33,000 人程。現在 29,000 人程まで減少したが、南陽と高畠は他の市町村に比べたらまだいい方。当時は米沢が 9 万人程、西置賜が 6 万人程で、置賜全体で 23 万人だったが、この間調べたら現在 17 万人。飯豊も小国も 6,000 人。本当に大変。

やはり何もないものを喋って、みんなの意見を沸騰させてからかたちにしていくことが議員の仕事。何もない何もないと口説いているが、菊まつりや熊野大社、現在あるもので光るものが南陽市にはたくさんある。本当にもっと堂々と、みんなと PR できるまちをつくっていきたいと思っている。

#### 4 協議 (1)第2期南陽市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改定について

意見等なし。

以上。